

「上空の一点(C)とのつながりを得(B精神⇒C絶対的概念)さへすれば、各個人(△枠)は、それぞれの隣人[青△&部分・相対(A'⇒A)]を飛び越えて、遠く広く、他の多くの人間(B⇒C)共有者・共同体:緑△)とつながる。もちろん、その一点(C)が万人共有のもので、ひとりひとりがその点に結びつけられてゐる(B⇒C)といふ前提のもとにおいてであります」(『日本および日本人』全三P201)。

\*「かれ(△枠)にとって最大の問題は、自分の行動(D2&F)に論理の筋を通すといふこと」[即ち、神との関係(信頼:D1の至大化)と言ふ眞實を、行動(D2&F)の上で見せる(Eの至大化)と言ふ事]。とはつまり以下…  
《関係論》①神(絶対概念:物:C)⇒からの関係:①に「②信頼してゐる」[即ち神の「救ひ・罰」をも神意(D1)として信じてゐる(D1の至大化)事]⇒③行動(②的概念:F)⇒③に論理の筋を通す(Eの至大化)[とは、神(C絶対)との黙契(D1の至大化)は、行動の結果「救罰即ち相対」を不問かつ享受。:③との距離獲得(Eの至大化)]⇒少数派(△枠):①への適應正常。

D2(自己劇化)からの関係:①に「②信頼してゐる」[即ち神の「救ひ&罰」をも神意(D1)として信じてゐる(D1の至大化)事]。

